



UN World Conference on
Disaster Risk Reduction
2015 Sendai Japan

© Ken Tada/Bond Project

レジリエンス resilience [ˈrɪzɪljəns]

【名】【U】

- 1 弾力, 弾性, 復元力.
- 2 回復力, 立ち直る力; 快活さ.

第3回 国連防災世界会議 パブリック・フォーラム「女性と防災」テーマ館
主催シンポジウム「女性と防災～仙台発 東日本大震災4年後の視座」

災害と女の子たち ～ガールズ防災会議～

2015.3.17 [Tue] 13:00～16:00

エル・パーク仙台 6F ギャラリーホール

主催：仙台市 / 公益財団法人 せんだい男女共同参画財団

共催：Gender Action Platform / 公益財団法人プラン・ジャパン /
公益財団法人ジョイセフ / 特定非営利活動法人オックスファム・ジャパン



www.sendai-^{エル}l.jp/jbf/

入場無料

日英逐次通訳あり





木須 八重子 開催によせて
 公益財団法人 せんだい男女共同参画財団 理事長

東日本大震災後、当財団では、支援が必要であるにもかかわらず、子どもと大人の狭間において「見えない存在」にされてしまった女の子たちに目を向け、仙台に住む女子学生と一緒に中高生の女の子の支援プロジェクトを展開しました。このシンポジウムは、東日本大震災や国外での災害経験から、「日常からの女の子への支援がその地域、社会、国を支えることにつながる」という視点を発信していきたいと考えています。



大崎 麻子 モデレーター・報告
 Gender Action Platform アドボカシー担当
 公益財団法人 プラン・ジャパン 理事

日本政府は国連婦人の地位委員会で「ジェンダーと防災」という決議を提案し、全会一致で採択されました。そこには大人と子どもの狭間にいる、「年ごろの女の子」に特別な注意を払う必要性が明記され、現在、世界各地で女の子のニーズに対応した災害支援や、復興・防災・地域づくりに女の子が参画できるようにする取組みが進められています。ここ日本ではどうでしょうか？東北の女の子たちの経験を踏まえ、一緒に考えてみませんか？

大崎 麻子
 国際協力・ジェンダー専門家、Gender Action Platform アドボカシー担当、公益財団法人プラン・ジャパン 理事。コロンビア大学大学院在学中に長男を出産。国連開発計画（UNDP）に就職し、途上国の女性支援に従事。在職中に長女を出産し、子連れ出張も経験。現在はフリーの専門家として、国際協力や東北の復興支援に従事している。サンデーモーニング（TBS系）のコメンテーターとしても活躍中。著書に『女の子の幸福論 もっと輝く、明日からの生き方』。

プログラム

- 3.11 後の女の子たち 彼女たちは今
- 災害時、女の子、女性が直面するもの
- 女の子たちへの暴力と災害
～海外の災害現場から～
- パネル・ディスカッション
～ガールズ・エンパワーメントを進めるには～

企画協力：特定非営利活動法人 BOND プロジェクト
 女子の暮らしの研究所

スピーカー

子どもと築く、未来のしくみ

Plan
 プラン・ジャパン
ウニ・クリシュナン

ウニ・クリシュナン Unni Krishnan
 国際NGOプラン 緊急災害支援担当、医師

1991年以降、インド、パキスタン、中国、アフガニスタン、ハイチなど、世界各地の災害・紛争地域において、人道支援のコーディネーターや被災者の心理社会的ケアの支援を行ってきた。また、国連が主導する国際支援のガイドライン作りにも深く関与。東日本大震災後、今回が4度目の来日となる。

bond
 Project
橘 ジュン

橘 ジュン
 NPO法人 BOND プロジェクト代表

2006年、パートナーのカメラマンKENと共に、街頭の女の子の声を伝えるフリーマガジンVOICESを創刊。2009年、10代20代の生きづらさを抱える女の子を支えるNPO法人BONDプロジェクトを設立。これまで少女たちを中心に3,000人以上に声をかけ、聞いて、伝えつけてきた。著書に『漂流少女～夜の街に居場所を求めて～』他。

公益財団法人 プラン・ジャパン

国連に公認・登録された国際NGOとして、アジア・アフリカ・中南米50カ国で、子どもたちとともに地域開発を進める。国際的には70年以上の歴史があり、日本では1983年に設立。東日本大震災に際し、緊急・復興支援を展開した。

特定非営利活動法人 BOND プロジェクト

10代20代の生きづらさを感じる女の子たちを女性が支援する団体。繁華街を漂流する少女たちの声を「聴き」、フリーマガジン『VOICES』を通じて世の中に「伝え」たり、女の子たちに寄り添いながら、彼女たちの選択肢を広げられるような支援に「繋げる」活動を行っている。

Joicfp
 途上国の妊産婦と女性を守る
宮原 契子

宮原 契子 公益財団法人ジョイセフ
 企画マーケティンググループ課長

人間行動学を学んだ後、広告会社で主に子どもや女性を対象としたマーケティング、広告制作、ブランド開発等を行ってきた。2011年、東日本大震災をきっかけに国際協力NGOジョイセフに転職。以降、マーケティングの他、東北被災地と途上国の母親・女性・女の子のエンパワーメントに力を注ぐ。

GIRLS LIFE LABO
林崎 知実

林崎 知実
 女子の暮らしの研究所 研究員

1991年南相馬市生まれ。震災当時に富岡町で被災し、実家は旧警戒区域となった。その後は、福島大学在学中に、災害ボランティアセンター、女子の暮らしの研究所で活動を行い、現在は社会人として仕事をしながら、女子の暮らしの研究所のラジオ事業のリーダーとして、活動を継続している。

公益財団法人 ジョイセフ（IPPF 東京連絡事務所）

途上国の妊産婦と女性の命と健康を守るために活動している日本生まれの国際協力NGO。戦後の日本が実践してきた家族計画・母子保健の分野での経験やノウハウを途上国に移転してほしいという国際的な要望を受け、1968年に設立。2011年3月の東日本大震災以降は、東北の妊産婦・女性支援も実施。

女子の暮らしの研究所

震災と原発事故をうけて、福島県18歳以上～ママ未満の若い女性たちが、「これからの暮らし」についてさまざまなアプローチで情報を発信。「カワイイ×伝統工芸」をテーマとしたアクセサリーの製作や、ラジオ番組「LABO LABO ラジオ」の運営、福島県内に案内するスタディーツアーの企画などを行う。

IPPF
 International Planned Parenthood Federation
スバトラ・ジャヤラジ

スバトラ・ジャヤラジ Subatra Jayaraj
 IPPF 緊急・復興支援（SPRINT）チーム、医師

セクシュアル&リプロダクティブ・ヘルス政策専門家。緊急・復興支援チームとして災害時の女性支援活動を行う一方、その重要性を国際社会に発信。

IPPF（国際家族計画連盟）：セクシュアル&リプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）分野で活動を行う世界最大級の国際NGO。

Gender Action Platform

OXFAM
 Japan

Gender Action Platform (GAP)
 「女性と男性が性別による差別を受けることなく、自分の生活や人生における選択肢を自分で選びとり、家庭や社会において尊敬を持って生きることができ、環境を創ること」を目的とし、2011年に設立。国際的な知見とネットワークを持つタンク型NGOとしての活動を展開。

特定非営利活動法人 オックスファム・ジャパン
 1942年にイギリスのオックスフォードで設立され、世界90カ国以上で活動する国際協力団体。東日本大震災以降、世界と日本の市民からのご支援により、初年度は女性向け物資配布、ホットライン開設と個別支援、2年目からは女性の就業支援や起業支援活動、女性の視点の防災研修等をパートナー団体とともに実施。

アクセス

<地下鉄>
 仙台市営地下鉄南北線
 勾当台公園駅下車
 (南1番出口より地下道で連絡)
 <バス>
 「商工会議所前」または
 「定禅寺通市役所前」
 バス停下車



託児あり

エル・パーク仙台で実施されるシンポジウム参加者向けの託児があります。下記によりエル・パーク仙台にお申込下さい。

- 対象 1歳以上未就学児まで
- 定員 5名
- ご利用料 子ども1人1日（最長5時間まで）1,000円
- お申込期間 2015年2月1日（日）～28日（土）先着順、定員になり次第締切
- お申込先 仙台市男女共同参画推進センター エル・パーク仙台

お申込の際にいただいた個人情報、託児の事務連絡の為、及び個人を特定しない情報として利用します。

お申込・お問合せ

ウェブサイト、または電話/FAXから
 (表面のQRコードをご活用下さい)

仙台市男女共同参画推進センター
 エル・パーク仙台

〒980-8555 仙台市青葉区一番町4丁目11-1
 141ビル（仙台三越定禅寺通り館）5・6F
 TEL 022-268-8300 FAX 022-268-8304